

家の作りつくりやうは 夏をむねとすべし

吉田兼好が徒然草に書いた言葉です。

その頃は、扇風機もクーラーもない時代。とにかく蒸し暑い季節をいかに快適に涼しく過ごせるかが住まいのポイントでした。ですから、すき間だらけは当たり前。風通しを一番に考えた家は、何より最高の住まいだったのです。

しかし、今では、扇風機やクーラーによって家の中から涼しくできる時代。その冷気をできるだけ外に逃がさないように、また、夏の日差しを家に入れないようにすることこそ、現代の住まいのポイントになっています。

そこで大工産は、快適な夏の過ごし方を、次のようにご提案させていただいています。

- I. 24時間冷房
- II. 24時間換気
- III. すだれやカーテンなどで日差しを遮る。
- IV. 日差しの差し込む方向に落葉樹を植えたり、庭に緑を設けるなど、家の周囲の気温上昇を抑える。

対策方法はまったく違っていますが、今も昔も、「夏をむねとすべし」という考え方は、最高の住まいをつくる上で、重要なポイントといえます。

そこで問題です！

締め切られた部屋、さてどこから熱い空気が部屋の中に入ってくるのでしょうか？



正解は・・・

- ① 窓から！
- ② 壁から！
- ③ 屋根や天井から！
- ④ 床から！
- ⑤ 換気扇などから！

結局、どこからでも熱い空気は入ってくるんですね(^_^;)
そこで、大工産ではこんな対策をとっています。

『窓』からの熱侵入対策

樹脂一体構造の高断熱性能のサッシを使用しています。一般のアルミサッシの約3倍の断熱性能をもっています。

『壁・屋根』からの熱侵入対策

密度の濃いウレタン材を断熱材として使用し、家の外側をすっぽり覆う外断熱構法により、外からの熱気をさえぎります。また、屋根にも断熱材が貼られているので熱気は屋根でシャットアウト！ 屋根裏に熱がこもることがありません。

『壁・天井・床』には、[※]無垢の木を使用 ※無垢の木：木材をそのまま板や柱として用いるもの。⇨合板

木は、「熱しにくく冷めにくい」という性質をもっています。そのため、一度温まると冷めにくく、一度冷やすと熱くなりにくくなります。

大工産では、壁・天井・床に、松・杉・ヒノキなどの無垢の木（厚さ30mm）をふんだんに使っているため、一度木材が冷えると、その冷気が続きます。そのため夏の夜など、クーラーを切っても、涼しさが長持ちします。人にも環境にもやさしい住まいといえましょう。

住宅の断熱性能を数値的に表したものに「Q値（熱損失係数）」があります。値が小さいほど断熱性能が高いことを表します。次世代省エネ基準が $2.7\text{W/m}^2\text{K}$ でクリアになるところ、大工産の標準は約 $2.3\text{W/m}^2\text{K}$ であり、数値的にも断熱性能は証明されています。詳しい内容をお知りになりたい方は、お気軽にスタッフまでお尋ね下さい。